

INDEX

1 第4回新任教員FDセミナーのご案内

2015年7月11日(土)に、市ケ谷キャンパス外濠校舎4階S405教室にて、第4回新任教員FDセミナーを行います。今回は、「身近な英語による授業のヒント集」をテーマに開催します。英語による授業のヒント集と共に、日本語での授業においても役立つコツをお話する予定です。是非、ご参加ください。

2 アカデミック・サポートサービスをご活用ください

2015年度から、アカデミック・サポートサービスをバージョンアップし、よりお役に立ていただけるようになりましたので、ご案内いたします。

3 経営学部FD懇談会～ネブラスカ大学での研修報告会の報告

経営学部では、2015年3月14日から22日までアメリカ合衆国ネブラスカ州オマハ市にあるネブラスカ大学オマハ校にて「【SGU事業】大学教員のための海外研修プログラム」を行いました。5月29日に、参加した経営学部教員6名による研修報告会が行われましたので、その時の模様を報告いたします。

1 第4回新任教員FDセミナーのご案内

2015年7月11日(土)に、市ケ谷キャンパス外濠校舎4階S405教室にて、第4回新任教員FDセミナーを行います。今回は、SGU事業の一環として、「身近な英語による授業のヒント集」をテーマに開催します。英語による授業のヒントとともに、日本語での授業においても役立つコツをお話する予定です。

第1部では、アルク教育社より吉中昌國氏をお迎えして、①授業設計のコツ、②学生のやる気を育てるコツ、③学生を巻き込むコツ、④学生の多様性に対応するコツについて、お話しいたします。

第2部では、3名の先生に事例紹介を行っていただきます。

■経営学部 鈴木 真奈美 教授

「英語による授業での工夫と気づきについて」

■経済学部 田中 優希 准教授

「ネブラスカ大学オマハ校研修後の実践—日本語講義「簿記入門」before&after」

■理工学部 藤井 章博 教授

「What the Best College Teachers Do」を読んで」

新任教員以外の教職員の参加も大歓迎ですので、奮ってご参加ください。

日時：2015年7月11日(土) 13:30～16:50(終了予定)

会場：市ケ谷キャンパス 外濠校舎4階 S405教室

※セミナー終了後、富士見坂校舎地下1階食堂にて1時間程度、情報交換会を開催します(自由参加)。

▼ 第1部のテーマ

1. しっかり設計するコツ
目的の明確化
シラバスに設立つ表現
しっかり設計する
2. 学生のやる気を育てるコツ
教員の情熱を開示する
専門分野を選んだ理由
学生のやる気育てる
3. 学生を巻き込むコツ
静かな学生に発言させる方法
学生が発言しない理由
参加型のレッスンにする
4. 学生の多様性に対応するコツ
有効なコミュニケーション
以心伝心とは対極のスタイル
学生の多様性に対応する

2 アカデミック・サポートサービスをご活用ください

FD推進センターでは、SGU事業の一環として、2014年度12月よりアカデミック・サポートサービス(ネイティブ講師のマンツーマンレッスン)を市ケ谷キャンパスからスタートしましたが、2015年度はさらにバージョンアップし、3キャンパスで開催しています。

また、6月からは、よく利用されているトピックを中心とした数名単位(1～6名)のグループワーク型ミニ講座を、市ケ谷キャンパスでスタートしました。他の教員と一緒に参加することで、講師からのアドバイスを受けるだけでなく、教員同士の気づきや工夫が共有でき、トレーニングの幅が広がります。どのキャンパスの先生でもご参加いただけますので、是非、ご活用ください。※アカデミック・サポートサービスとは、アカデミック・アドバイザー(日本語で意思疎通が可能なネイティブ講師)が、教員向けに英語による授業を実施するためのサポートを行うサービスです。専任・兼任にかかわらず、ご利用可能です。

英語による授業をサポート
FD推進センター

アカデミック・サポートサービス

【詳細はこちら】
https://www.event-u.jp/fm/10532

英語による授業をサポート
FD推進センター

アカデミック・サポートサービス

ミニ講座のご案内

【詳細はこちら】
https://www.event-u.jp/fm/10534

参加教員の声

グローバル・オープン予定科目の英文テキスト校閲を受けています。講師の先生は、参考資料、ホワイトボードや時には日本語も駆使して、ポイントをわかりやすく、楽しく、気さくに、毎回サポートしてくれます。ミニ講座も参加します！

英語で話すことが苦手なので、このサービスにチャレンジしました。1対1の対面形式のレッスンではたくさん話しますので、とても効果的です。先生はとても親切で、何度失敗しても辛抱強く支援してくれます。このレッスンをとても楽しみにしています。

発行：
法政大学
教育開発支援機構
FD推進センター

ホームページ
http://
www.hoseikyoiku.jp/fd/

問い合わせ先
fd-jimu@hosei.ac.jp

申込方法や、開催日時詳細については、FD推進センターのホームページに掲載していますので、ご確認ください。

<http://www.hoseikyoiku.jp/fd/>

3 経営学部FD懇談会～ネブラスカ大学での研修報告会 報告

経営学部では、2015年3月14日から22日までアメリカ合衆国ネブラスカ州オマハ市にあるネブラスカ大学オマハ校(University of Nebraska at Omaha)にて行われた「【SGU事業】大学教員のための海外研修プログラム(Faculty Development (FD) Program for Japanese Professors)」に6名の教員が参加しました。5月29日に、研修報告会が経営学部会議室にて行われましたので、その時の模様を報告いたします。

【開催概要】

- 日時：5月29日(金) 15:20～17:00
(報告75分+質疑応答25分)
- 場所：経営学部会議室(BT16F)
- 参加者：合計29名
- 報告プログラム：
 - 1) 研修日程の概要 報告担当：田路教授<10分>
 - 2) 参加の動機と最終プレゼンDVDの映写：5分×6名 参加者全員<30分>
 - 3) 課題図書から学んだこと 報告担当：洞口教授<7分>
 - 4) 研修(午前中)の講義から学んだこと 報告担当：金容度教授<7分>
 - 5) 研修(午後)の授業参観で学んだこと 報告担当：高橋教授、金瑠晋教授<14分>
 - 6) 法政大学での授業に活かしていること 報告担当：北田准教授<7分>
 - 7) 質疑応答と改善提案 <25分>

・深い学習のもたらすもの

続いて洞口治夫教授より、研修で使用したテキストについて説明がありました。ケネス・ペイン著『最も優れた大学教授がしていること』というテキストで、印象に残ったのは「深い学習」というキーワードで、権威的な教え方を否定し、「深い学習を助けた」教授は学生との間に信頼関係が生まれるとのことでした。

・教育とは、HELPである！

次に金容度教授からは、今回の研修で学んだことについていくつか報告がなされました。まず、**教育とは学ぶことを手伝うこと**である**単なる知識の伝達ではないこと**、学生の多様性(人種・文化・国籍・性別等)に配慮した授業を行うこと、また**集中力が持続するのはせいぜい15分程度**であるので15分刻みに内容を変化させること、単なる講義ではなく何か作業させるなどの工夫をすることで教えた内容の定着率が向上すること、等が重要であることを学んだそうです。

・学生の集中力を途切れさせない工夫とは・・・

次に高橋理香教授と金瑠晋教授から、授業参観を通じて学んだことについて報告がありました。高橋教授からは、十分な事前準備、緻密な授業計画、徹底したタイムマネジメント等のほか、学生の集中力を途切れさせない工夫(1トピックごとに講義と実践をセットにして行う、教室を回ってチェックをする等)、**多様なマテリアルの利用**(テキストの出版社から提供された資料の活用、スライドだけでなく板書も併用する、統計ソフトの利用、遊びの要素を取り入れる等)、といった点が指摘されました。金瑠晋教授からは、さらに、学生との受け答えでは基本的に褒めることに徹すること、ファイナンスの講義では金融電卓が活用されていたこと、授業における双方向性の重要性を再確認したこと、グループディスカッション、ゲームなどのアクティブラーニングの活用頻度は科目や学習テーマに依存したこと等が指摘されました。



・活用報告～授業は10分の集中で勝負！

最後に北田皓嗣准教授より、研修で学んだ内容を法政大学での授業にどのように活用しているかについて報告がありました。まずは実践してから説明するのがよいというアドバイスを生かし、実際に「CVP分析」をさせてから「管理会計とは」を説明するようにしているとのことでした。また学生に何らかの発表をさせるために、「**まず書き(最初の3分間)、話し合い(学生同士で議論)、そして発表させる**」という手順をふむのがよいとのこと、これは日本人学生でもうまくいったそうです。

集中できるのは10分。その10分を、前回の復習、エクササイズ①、エクササイズ②、解説、今回の授業内容①、エクササイズ③、今回の授業内容②、というように細分化していく等、綿密に組み立てる方法を実践しているそうです。

最後に、学問的・実務的な問題意識を学生自身の中に「再現」させる工夫は、知識の構築プロセスとして重要な手順であると感じたと指摘されていました。

本報告会には、29名もの方が集まり、大変興味深く耳を傾けていたようです。関心の高さが伺えました。

最初に田路則子教授より、ネブラスカ大学研修の概要について説明がありました。

この研修の目的は、**非英語圏の教員が「英語」で効果的な授業を行うためのティップスを学ぶこと**であり、テキストを使った座学のほか、授業参観をしたり、最終日には模擬授業と質疑応答をしたりと、非常に中身の濃いものだったようです。

模擬授業の後の講評で、現地の学生や講師から次のようなコメントやアドバイスが寄せられました。

- ・学生の答えが間違っている、No(違う)と言っ
てはいけない。とりあえず、それもいいね
(might be good)と返す。
- ・質問にしっかりと答えることができた時、ご褒
美(お土産)を渡したことはよい、質問があった
時に質問者に近寄ったのはよい。
- ・スライドはできるだけビジュアルにするのがよ
い。
- ・あまり発音がよくなくても、基本的に関係ない、
スライドがあるのだから内容はわかる。発音
は気にしすぎるな。

